

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8287
担当部課名	生涯学習部	生涯学習	課	成人教育 班
事務事業名	夜間管理代行員等経費		事業コード	15110

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	~63 年度
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

なし

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
公民館図書室に非常勤職員を適正に配置することにより、効率的な公民館図書室運営を図るとともに、市民サービスを向上させ、より多くの市民が利用できる公民館図書室運営を図る。		市民	
		対象数	30万人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> 公民館図書室職員賃金(37,107千円) 図書室職員人数(公民館図書室21館×3名=63名) 公民館図書室開室日(292日) 公民館図書室開室時間(10時30分~16時30分 12時~13時休室) 公民館図書室職員1人あたりの平均年間賃金(589千円) 公民館図書室職員の勤務内容 図書の貸出返却事務、予約受付及び参考相談、登録及び貸出券の発行、図書の選書・整理・除籍事務、督促事務、利用統計の作成、図書館との連絡調整等 		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	計画年次

4 評価指標

指標名	公民館図書室利用者数の前年度比率	公民館図書室の貸出冊数の前年度比率	公民館図書室人件費削減前年度比率
指標式	$\frac{\text{各年度の利用者数}}{\text{前年度の利用者数}} \times 100$	$\frac{\text{各年度の貸出冊数}}{\text{前年度の貸出冊数}} \times 100$	$\frac{\text{前年度の人件費}}{\text{各年度の人件費}} \times 100$
指標設定の意図	公民館図書室利用者数の前年度との比較を表す。	公民館図書室貸出冊数の前年度との比較を表す。	図書室人件費が前年度に比べ削減できたかを表す。

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	100.9	87.8	a 93.4	b 95.0	100.0	
指標	100.2	87.2	c 91.7	d 95.0	100.0	
指標	98.2	101.4	e 104.3	f 105.0	100.0	
事業費	決算(予算)額	39,216	38,692	37,107	38,000	38,000
	人員・時間数	1,320時間	1,320時間	1,290時間	1,290時間	1,260時間
	人件費	5,518	5,518	5,393	5,393	5,267
	その他経費					
	合計	44,734	44,210	42,500	43,393	43,267
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 98.1%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%>)		
a	93.4	b	95.0
$\frac{93.4}{95.0} \times 100 = 98.3\%$		c	91.7
		d	95.0
		$\frac{91.7}{95.0} \times 100 = 96.5\%$	
e	104.3	f	105.0
		$\frac{104.3}{105.0} \times 100 = 99.3\%$	
理由:	平成13年度については、橋本図書館の開館により、橋本公民館図書室が閉室したため、利用者数、貸出冊数ともに目標よりも低めに推移したことによる。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	生涯学習時代といわれる今日、市民の学習意欲は増加しており、公民館図書室は地域に密着した生涯学習施設としてもっと利用されるべきである。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	公民館図書室職員は限られた賃金の中で多くの煩雑な事務をこなしており、費用対効果は得られている。市民サービスの低下をまねかないためにも現在の事業費を維持する必要がある。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	公民館施設の一部として位置付けられていることから、地域に設置されていることに意義があるため、市が実施することが妥当である。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	公民館図書室は一部の市民が利用するに留まっているため、公民館図書室の利用率を上げ、より多くの市民の満足度を得る必要がある。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	公民館図書室をより多くの市民が利用することにより、生涯学習機会の充実がはかれるとともに、生涯学習の推進に結び付くものである。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明: 現在延べ約17万人の市民が利用している公民館図書室であるが、PRのしかた等により、より多くの市民に利用してもらえるものと考えます。</p>	
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明: 公民館図書室の利用者を増やすためには、市民サービスの充実のための人件費は確保する必要があるため、最低でも現状維持は必要である。</p>	

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	平成14年度は公民館図書室の昼休み時間の開室や、夏季期間の時間延長を実施するなど、地域住民がますます利用しやすい公民館図書室をめざし事業を展開している。今後も各公民館図書室の現状や市民ニーズの把握に努め、より効率的で充実した公民館図書室運営を進めていく。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--